

船釣りの作法

釣技
食技

其の二十一 内房勝山港出船の コマセダイ



暁光の富浦沖、明け方の好機を逃さず2キロ級を上げる

コマセダイは攻略もクリアもない 自然相手のゲームである。

朝日に浮かび上がる房総半島の輪郭を背景に、フォースマスター600のドラグサウンドとモーター音が交互に、適度な間を置いて軽快に響き渡り、松本圭一さんの愛竿・軸20・270がしなやかに弧を描いては伸びる。

「そこそこ、あるよ」

両手を広げて慎重にハリスを6回ほどたぐると暗い海中にポツと白い影が現れ、みるみる膨らんだかと思うと重みのある婚姻色のマダイが浮かび上が

った。

「きましたね。早く次、いきましよう」

松本さんは手を休めず投入する。水深65メートル、指示タナは45メートル、50メートルまでコマセカゴを落としたらハリスが馴染むのを待つことなく、タッチドライブスピードロックを活用しながら素早くコマセを振り出し45メートルに合わせる。

「乗っ込みの魚は上を意識しているから、できる限り低い所にビシを置かず、

松本さんの軸20・270がしなりフォースマスター600のドラグ音が響く

◀基本的にコマセのオキアミは軽く一握り。コマセが少ないほうが付けエサに食いつく確率が高くなる、と考える



◀ハリスはテーパー式。接続部にはスィベルとガン玉で計3Bの重さを持たせることで上の6メートル分は素早く沈め、先の6メートルのフカセ具合を小さなガン玉で調整する



マダイの視界から早く消したいんです。素早いコマセワークの理由はマダイを警戒させないため。ハリスも素早く馴染ませるため中央部に3B相当のウエイトを加えている。

「底と雷層に反応があるんです。底から上がってくるのか、雷層から横に追ってくるのか……どっちかなあ」

探見丸を凝視しながら呟く松本さん。「さっきは底だったけど、今は上かな」独りこちながら指示ダナより5メー

◎松本圭一 淡水・海水を問わない無類の釣り好き。中でも船釣りには幅広く精通し、小型から大型魚まで様々なターゲットを追いかける。

